

防災訓練の結果の概要〔要素訓練〕

1. 訓練の目的

要素訓練は、各手順に対する対応の習熟を目的として実施している。

2. 防災訓練のために想定した原子力災害の概要

(1) 重大事故等対応訓練

大規模地震や機器故障等を起因として、原災法第 15 条該当事象に至る事象、または原災法第 15 条該当事象に至る可能性がある事象を想定した。

(2) モニタリング訓練及びその他必要と認める訓練

起因となる事象は特定せず、原子力災害等が発生した場合において、配備している資機材等の活用が必要となる状況を想定した。

3. 訓練実績

報告対象期間中に実施した要素訓練は以下のとおり。詳細は、添付資料参照。

(1) 重大事故等対応訓練 ; 実施回数 : 8 回、延べ参加人数 : 1813 人

(2) モニタリング訓練 ; 実施回数 : 18 回、延べ参加人数 : 88 人

(3) その他必要と認める訓練 ; 実施回数 : 146 回、延べ参加人数 : 649 人

4. 評価内容

要素訓練については、訓練目的の達成状況について評価している。

報告対象期間中に実施した要素訓練をとおり、現状整備している手順、資機材および要員配置について、あらかじめ定められた機能を有効に発揮できることを確認した。今後も訓練を通じて更なる改善を図っていく。

5. 今後の原子力災害対策に向けた改善点

報告対象期間中に実施した要素訓練をとおり、更なる改善事項を抽出した。詳細は、添付資料参照。

訓練実績及び今後の原子力災害対策に向けた改善点

(1) 重大事故等対応訓練

訓練項目	内容	対象者	実施回数	参加人数	結果	今後の原子力災害対策に向けた改善点
全社防災訓練	大規模地震、及び重大事故等への対応確認を目的とした総合的な訓練	緊急事態対策要員（原子力防災要員含む）及び本店緊急事態対策要員	計 1 回 (11 月)	計 471 人 浜岡：299 人 本店：172 人	達成	【抽出した課題】 ・技術班の進展予測入力途中に、号機班が COP3 を発行する場面があった。 【改善点】 ・号機班－技術班の情報連携方法について、COP3 発行時においては、号機班にて進展予測情報が最新であるか確認する運用とするとともに、班員への周知を図る。
図上演習	重大事故等に対する本部運営習熟を目的とした訓練	緊急事態対策要員（原子力防災要員含む）及び本店緊急事態対策要員	計 7 回 (6 月～1 月)	計 1342 人 浜岡：861 人 本店：481 人	達成	【抽出した課題】 ・コンタクトパーソン補佐の配置が悪く、本部席内で発話が聞き取りづらい場面があった。 【改善点】 ・マイクの音量調整およびコンタクトパーソンと補佐の席入れ替えを検討する。

(2) モニタリング訓練

訓練項目	内容	対象者	実施回数	参加人数	結果	今後の原子力災害対策に向けた改善点
環境モニタリング訓練	・マルチコプター操作訓練 ・可搬型モニタリングポストによる測定訓練 ・可搬型気象観測設備による測定訓練	放射線管理班	18回 (4月～3月)	計88人	達成	・特記事項なし。 今後も訓練を通じて更なる改善を図っていく。

(3) その他必要と認める訓練

訓練項目	内容	対象者	実施回数	参加人数	結果	今後の原子力災害対策に向けた改善点
ERC との情報共有訓練	・ERC プラント班との情報連携訓練	ERC 対応 G	計 6 回 (9 月～2 月)	計 54 人	達成	・特記事項なし。 今後も訓練を通じて更なる改善を図っていく。
重大事故等 対処設備取 扱いに係る 現場訓練	・可搬型注水設備設置訓練 ・燃料給油訓練 ・電源車設置訓練 ・窒素ガス供給設備設置訓練 ・放水設備設置訓練 ・燃料プール給水訓練 ・シルトフェンス設置訓練 ・重機運転操作訓練 (20t ブル)	復旧班	計 33 回 (4 月～3 月)	計 222 人	達成	【抽出した課題】 ・設置完了後のイメージが班内で同一のものではなかったため、一部円滑に作業が進行しない部分があった。 【改善点】 ・リーダーは図などを用いて設置完了後のイメージを班員と共有する。
電源機能等 喪失時訓練	・可搬式動力ポンプ設置訓練 ・災害対策用発電機設置訓練 ・発電所構内通信手段確保訓練 ・非常用ディーゼル発電機燃料移送訓練 ・地盤隆起を考慮した代替取水訓練	復旧班	計 10 回 (9 月～2 月)	計 87 人	達成	【抽出した課題】 ・敷設後の、通水していない消防用ホースが風で飛ばされそうになった。 【改善点】 ・ホースをまたぐようなおもりを使用することで、ホースの機能に影響を与えず風で飛ばされることを防止できた。

訓練項目	内容	対象者	実施回数	参加人数	結果	今後の原子力災害対策に向けた改善点
原子力緊急 事態支援組 織に係る訓 練	・無線重機操作訓練（定着） （訓練場所：美浜原子力緊急事態支援センタ ー）	復旧班	計４回 （６月）	計８人	達成	・特記事項なし。 今後も訓練を通じて更なる改善を図っ ていく。
	・遠隔操作ロボット操作訓練（定着）	復旧班	計４回 （８月）	計１６人	達成	・特記事項なし。 今後も訓練を通じて更なる改善を図っ ていく。
	・無線ヘリコプター操作訓練	復旧班	計２回 （９月）	計４人	達成	・特記事項なし。 今後も訓練を通じて更なる改善を図っ ていく。
	・無線重機操作訓練（反復） （訓練場所：浜岡原子力発電所）	復旧班	計２回 （３月）	計４人	達成	・特記事項なし。 今後も訓練を通じて更なる改善を図っ ていく。
既設設備復 旧訓練	・原子炉機器冷却海水ポンプモータ 取替訓練	復旧班	計１回 （２月）	計７人	達成	・特記事項なし。 今後も訓練を通じて更なる改善を図っ ていく。

訓練項目	内容	対象者	実施回数	参加人数	結果	今後の原子力災害対策に向けた改善点
原子力事業所災害対策支援拠点訓練	原子力事業所災害対策支援拠点の設営・運営に必要な資機材の輸送、設営・運営手順の確認を実施し、派遣要員の技能取得、習熟を図ることを目的とした訓練	災害対策支援拠点派遣 G	計 1 回 (10 月)	計 18 人	達成	【抽出した課題】 - 訓練は実施できたが、多数のプレイヤーの習熟度が低かった。牧之原市相良地区防災拠点を利用した訓練が初めてであったことと、大幅な人員の入れ替えがあったことが要因だと考えられる。 【改善点】 - 各役割の詳細なマニュアルを整備するとともに、事前の教育を丁寧に実施する。
オンサイト医療に関する訓練	- 原子力安全研究協会によるオンサイト医療体制構築に向けた訓練（傷病者搬送訓練） - 全社防災訓練（傷病者対応・搬送訓練） - 緊急事態対策訓練（傷病者対応・搬送訓練）	安否確認 救護班	計 3 回 (10 月～2 月)	計 46 人	達成	【抽出した課題】 - 今年度より班員が大幅に変更となり、現場資機材の配置場所や使用方法について習熟度が低かった。 【改善点】 - 手順書やマニュアルを整備するとともに、事前の教育を丁寧に実施する。
	原子力安全研究協会派遣要請通信連絡確認訓練	放射線管理 G	計 1 回 (2 月)	計 7 人	達成	【抽出した課題】 - 通報様式に訓練の前提とは異なる記載があるため、余分な文言を削除し FAX を行っただが、通報様式に記載する内容等を統一化するため、定型化を図った方が良い。 【改善点】 - 通報様式へ記載する内容の定型化を図る。

訓練項目	内容	対象者	実施回数	参加人数	結果	今後の原子力災害対策に向けた改善点
その他 訓練	・重機運転操作訓練（20t ブルドーザ以外） ・車両運転操作訓練	復旧班	計 79 回 （4 月～3 月）	計 176 人	達成	・特記事項なし。 今後も訓練を通じて更なる改善を図っていく。